

みなとぴあボランティアレター 第52号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2024.3

秋から冬にかけての活動を紹介します！

1/13 ボランティア室大清掃

1月13日（土）にボランティア室の大掃除を行いました。この日は9名の方にご参加いただき、場所ごとに手分けして掃除しました。ボランティア室の掃除は約19年ぶり！あらゆるところに様々な汚れがありましたが、拭き掃除などを行いきれいになりました。また、これまでイベント等で使用した備品も整理し、配置を変えたことで使用しやすくなりました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。これからもきれいに使いましょう！



1/18 よろい工房

これまでボランティアスタッフの自主活動として実施してきた「よろい工房」。1月18日（木）をもってついに活動終了となりました。段ボールなどの廃材を使いつつ、ヒモの結び方や光沢の出し方などを研究し、リアリティを追及してきました。そして、最終的には計5領のよろいを制作しました。

制作したよろいは、毎年5月の節供に実施している体験プログラム「かぶとをつくろう」でつくったかぶととともに参加者に着用してもらうことで武将気分を味わってもらっています。今後も様々な場面で活用させていただきたいと思っています。

よろい工房のみなさま、本当にお疲れ様でした！



1/21 ステップアップ研修

1月21日（日）、今年度2回目のステップアップ研修を実施しました。今回のテーマは、アンケートで実施の要望が最も多かった「戊辰戦争」。当該期の新潟の状況について、先行研究をもとに安宅学芸員から紹介していただきました。

戊辰戦争時、東北及び越後地方では「奥羽越列藩同盟」が結成され、新政府軍と対峙します。最新の研究では、同盟が結成される以前に東北の諸藩と九州の諸藩との間に連携の可能性があったことや越後諸藩に大藩がなかったことが「奥羽越列藩同盟」に加入せざるを得ない状況をつくっていたことなど、同盟結成の経緯が再検討



されているといひます。また、軍事技術に関する研究も盛んに行われており、今回は特に新潟港に武器を調達していたスネルについての研究成果を報告していただきました。スネルの手紙からは、武器商人の視点で戦争をみることができ、戊辰戦争を多角的にみるおもしろさを知ることができました。

参加したボランティアスタッフからは「戊辰戦争時の東北各藩の動向、かけひき等、これまであまり知られていなかったことを教えていただき大変参考になりました」「とても興味深いお話で、ドラマが見えるようでした」との感想があり、充実した研修であったことがうかがえました。

1/21 新年会

1月21日（日）に新潟駅前にある「和食郷土料理 個室居酒屋 新潟屋 ー新潟本店ー」で新年会を開催しました。新型コロナウイルスが流行して以降、はじめての開催となります。ステップアップ研修後ということもあり、今回は26名という多くの方にご参加いただきました。

会はボランティアの荒木さんから祝いの唄「高砂」を唄っていただき、川上さんの乾杯の挨拶ではじまりました。今回はじめて参加する方もいらっしゃいましたが、ボランティアスタッフ同士仲良く交流している姿が見受けられました。また、会話からは開館20周年ということでボランティアフェスティバルなどのイベントで館を盛り上げようという意気込みも感じました。2時間半という例年よりは長い時間の開催でしたが、時間が足りないという声も。大盛況の会となりました。

司会や準備を進めてくださった準備メンバーのみなさま、ありがとうございました。

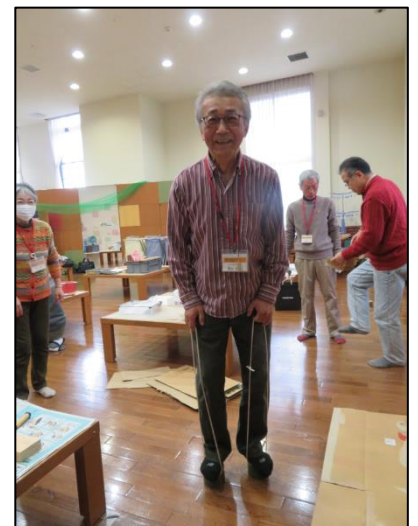


1～3月 おもちゃ屋さん

1月からボランティアスタッフの自主活動「おもちゃ屋さん」がはじまりました。この取り組みは、体験の広場にある壊れたおもちゃを修繕したい、昔ながらのおもちゃを制作してみたいという希望からはじまったものです。現在は1ヶ月に2度のペースで活動し、トイレットペーパーや段ボールといった廃材や木材を使用し「にょろにょろへび」や「はしご下り」といった簡単かつユニークなおもちゃを制作しています。制作したおもちゃは体験の広場に置き自由に遊ぶようにしたいとのこと。また、おもちゃづくりの経験をもとに新たな体験プログラムを企画することも計画しています。

興味のある方は一緒に活動してみませんか？

多くの方の参加、お待ちしております！



2～3月 新規ボランティア研修

毎年恒例、新規ボランティア研修がスタートしました。説明会には10名の方にお越しいただきました。その後、常設展示ガイド、敷地ガイド、体験の広場ガイドに分かれて研修を実施しました。常設展示ガイド及び敷地ガイドの研修では質問が多く出されており、また体験の広場ガイドではそれぞれが協力して活動する場面がみられるなど、充実した研修であったことがうかがえました。

高校生ボランティアの説明会も実施し、15名の高校生が参加しました。前年度より活動している生徒を加えると21名での活動となります。それぞれの好きなことや得意なことを活かして楽しく活動していただければと思います。



みなとびあボランティア体験記

今回は去年からボランティアとして活動されている佐藤雅義さんから執筆いただきました！

新潟市歴史博物館ボランティアガイドにかかわって、1年になります。コロナ禍の中、生活スタイルが大きく変わった方も多いのではないかと思います。私もサラリーマン生活卒業後を考え始めた時期と重なっていました。何かやらねば…と思い市報のボランティアガイド募集を見てチャレンジしてみることにしました。

常設展と敷地ガイドの講座を受けて、その後、1ヶ月くらいは自主学習をして、運よく見極めが通りました。塔屋見学会が最初のボランティアでした。時間が限られる中、何を話したらいいのかと、あれこれ考えましたが、まとまりきらずに本番となりました。初めて塔屋に上がり、開港のことなど話しましたが、何を話したか覚えてないほどで、一人よがりの一方的な解説で終わった感じがします。

次は関西からのバスツアーの団体さんで常設展の案内をしました。時間は1時間とのことでしたので、基本パターンなので大丈夫と考えていました。振り返ると、同じパターンにはまっていたなと思いました。一方的な解説…。関西の方なので信濃川の名前は知っているが、阿賀野川や新潟県については、ほぼ予備知識がないと思われる中、常設展示を楽しんでいただくためには工夫が必要ですね。小人数グループの方へは、コミュニケーションをとりながら、解説するようになりましたが、まだまだ奥が深い世界ですね。



コミュニケーションをとりながら、解説するようになりましたが、まだまだ奥が深い世界ですね。

実は、3年ほど前から新潟市のバスツアーの企画を行うことがあり、みなとびあ常設展、敷地ガイドと佐渡汽船の出船をコースに入れていきます。新潟にお越しになる方が、必ずみなとびあに立ち寄っていただきたいなと思っています。

来館される方は、それぞれ、お持ちの知識や興味

が違いますが、コミュニケーション能力を上げて『素晴らしい新潟』を感じ取っていただきたいと思っています。今後も、できるだけ多くの方にお越しいただきたいと思ひますし、機会を見つけてガイドも行いたいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

3/27 開館 20 周年記念「古町芸妓の舞」

3月27日(水)はみなとぴあが開館して20年という記念すべき日です。これを記念して「みなとぴあ誕生祭」を開催しました。このイベントは一般市民とボランティアが「実行委員会」を結成し実施しました。イベントでは古町芸妓のみなさまにお越しいただき、舞を披露していただきました。また先着100名に紅白饅頭を配布する取り組みも実施しました。実行委員会のボランティアスタッフには会場準備をはじめ、紅白饅頭の配布などをお手伝いいただきました。当日は約160名の方にお越しいただき、大変賑やかなイベントとなりました。また、実行委員会のボランティアスタッフ以外にも多くのボランティアスタッフがみなとぴあ20周年のお祝いに駆け付けてくださいました。本当にありがとうございます！



このイベントを皮切りに20周年を迎えるみなとぴあを職員と一緒に盛り上げていただきたいと思ひます！



実行委員会を代表して伊豆田さんから
開館当時の思い出などをお話しいただきました！



荒木さんがお座敷遊びに挑戦！

【編集後記】

秋から冬という寒い時期でしたが、みなさまのフットワークの軽さもあり、様々な活動ができました。特に久しぶりに開催した新年会、今年から活動している「おもちゃやさん」ではボランティア同士盛んにコミュニケーションを取り、交流を楽しんでいました。新規ボランティアの方々も加入し、さらに賑やかな活動ができそうな予感。加えてフレッシュな高校生ボランティアもたくさん加入しました。新旧ボランティアで協力し、楽しみながら20周年を盛り上げていただければ幸いです！（鈴木）

2023.6月現在

みなとぴあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとぴあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。



(順不同)